



令和5年6月30日

第9号

ときわ会東蒲・五泉支部

広報委員会

夏の夜空に流れる天の川を裏山で撮影するのは、初夏の深夜がよい。人々が寝静まり、光害の影響が少なくなる頃、ほどよい位置にのぼってくる。
○B会員 大内 高德 様(昭60年度・五泉市理科教育センター)



ときわ会の存在価値

支部長 山崎 浩志

(昭62年度)

ときわ会が創設一五〇周年を迎え、「志」の継承 未来へ」をテーマに事業が進められている。

予測困難な時代を迎え、様々な教育課題が山積する状況において、ときわ会が進化・深化し続け、新潟県の教育の充実・発展に貢献する役目を担っていることは確かである。一五〇周年のその先、未来への橋渡しの役目、それが「ときわ会の真価」となる。

ここでふと考える。ときわ会の存在価値とは何か。

答えの一つが、全国連合小学校長会前会長の大字氏の言葉にある。今、教育界は、教員志願者や管理職を目指す人材の減少が大きな問題となり、教育の質の低下、持続可能な教育の存亡の危機に直面している。

大字前会長は次のように言う。「教員になった人が教員を最初目指した時期として、幼稚園から中学校にかけてが四割強に及ぶ。子どもの時の憧れの気持ちは、人

の人生に大きな意味をもつ。元気で、一生懸命で、魅力あふれる教師が、子どもたちに憧れの気持ちを抱かせ、そのことが次の世代の教師を生み出す」と。

元気で、一生懸命で、魅力あふれる教師を育てること。これこそがときわ会の存在価値であろう。そんな教師の姿が、十年後の教師を生む。あるいは、魅力あふれる管理職の姿が次の管理職を生み、魅力あふれるミドルリーダーの姿が次のミドルリーダーを生む。

このような好循環を目指し、今年度も、支部活動のスローガンとして『あ』こがれ、『つ』ながり、そして『み』らいへ』を掲げ、会員個々の「5せん」(専門性・先見性・洗練さ・センシビリティ・センス)を磨き続ける。

会員一人一人がときわ会の存在価値を自覚し、魅力あふれる姿を発揮し続ける。そこに、持続可能なときわ会、進化・深化し続けるときわ会の未来がある。

令和五年度スタート！ときわ会東蒲・五泉支部の取組

● 研修委員会 ●

憧れられる授業力を
身に付けよう



五泉南小学校
若狭 陽一
(平2年度)

各自が研究テーマを設定し、互いに学び合う「グループ研修」が支部研修の核となります。
○グループ研修
全員が教科・領域別のグループに所属し、少人数で年間五、六回の研修を行います。
○秋季、冬季研修総会
各自がグループ内で発表を行います。さらに、各グループ代表者が全体に向けて発表を行います。
○研究集録
各自が、グループ研修の成果をまとめます。

● 組織委員会 ●

「つながり」の再構築



五泉東小学校
藤崎 善之
(昭63年度)

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが変わり、会員相互の「つながり」を再構築できる時期が到来しました。本委員会はこれまでの取組を深化・発展させ、交流の促進、情報共有を図ります。
○会員相互の交流と親睦
自立会員激励会、女性会員の集い、支部出身会員激励会、交流委員会、年度代表者会等の事業を通して、交流と親睦を深めます。一部事業は懇親会も行う予定です。
○入会促進の取組他
【目標：支部五名以上】

● 広報委員会 ●

絆の厚みを広げ、会員
一人一人の「5せん」を高める



川東小学校
雑賀 真澄
(平元年度)

支部広報誌「源清流清」の発行も、五年目を迎えました。今年度も東蒲地区と五泉地区に勤務する会員同士の顔や人柄が分かり、それぞれの地区在住のOB会員の皆様ともつながる広報誌を目指していきます。
また、本部一五〇周年記念誌の支部ページの作成、本部ホームページ「支部情報ボックス」の活用を通して、支部の「あつみ」のある取組の様子を、全県の会員に向けて発信します。

● 地域連携推進委員会 ●

勤務する地域への恩送り



村松桜中学校
稲生 一徳
(平3年度)

地域の信託に応える学校づくりのため新しい風となるのが「地域連携推進委員会」です。
教育研修団体「ときわ会」の本旨に立ち返り、地域連携を理解して、地域貢献することの価値について、会員で再確認する研修を企画します。
また、地域の各種催しも再開されます。私たちが勤務する地域に暮らす人を元気にすることは社会的責任でもあります。会員として、どう貢献していくのか、当事者意識をもち、考えることができるよう働きかけていきます。

○学力向上委員会の活動
全国学調から見えてきた授業改善への提言を、行います。
若手を育てる、先輩に指導を願う等、それぞれの年層に期待する研修の姿があります。ぜひ、グループで研修を行う意義を実感してください。

全会員がときわ会のトップセールスです。これらと思う方への魅力をお伝えいただき、お声掛けをお願いします。
本委員会ではと青研、と中研への支援も行います。お気軽にご相談ください。

今年度も引き続き、学校同士、会員同士の実践交流を通して絆を深め、会員一人一人の「5せん」が高まる広報活動に取り組みます。原稿執筆の依頼がありましたら、快くお引き受けいただき、玉稿をお寄せください。

① 支部から紹介するイベント等にボランティアとして参加
② 理科センター主催の「夏休みわくわく科学体験」に協力
会員の皆様、一人一人の気持ちの集まりが、地域と「ときわ会」を未来へ推し進めると信じています。